



# 2024年度事業報告



## 第1：UN Tourismアジア太平洋地域事務所（RSOAP）が実施するアジア太平洋地域（日本国内を含む）における観光振興のための活動に対する支援

1 持続可能な観光促進支援事業

2 観光分野のレジリエンス促進事業

3 学術的調査・研究支援事業

4 UN Tourism及びUN Tourism関連国際会議等への参加・運営支援

5 UN Tourismベスト・ツーリズム・ビレッジを活用した地域の取組の推進

6 UN Tourism及びRSOAPの情報発信等支援事業

## 第2：地方公共団体等が行う観光交流促進に資する活動に対する支援

1 國際人材育成支援事業

2 國際交流サロンの運営

## 第3：贊助会員に対する取組

1 APTEC会員限定セミナーの開催

2 当財団のウェブサイト等を通じた情報発信



RSOAPが行う、持続可能な観光の促進に関する以下の技術協力等を支援した。

## (1) 地域における持続可能な観光地づくりの実践に関する事例アーカイブの拡充

地域における持続可能な観光地づくりの実践事例を収集した「持続可能な観光アーカイブ」について、2024年度は収集数を増加し、内容を充実させた。

## (2) 持続可能な観光の促進に関する国内向けシンポジウム・セミナーの開催、研修の実施及び関係者の連携促進

「持続可能な観光アーカイブ」事例提供者のうち、「先進事例」とされる4地域を登壇者に迎えた「持続可能な観光の実現に向けた先進事例シンポジウム」をオンラインにて開催した。

日 時：2024年12月18日（水）13:30～16:00

形 式：YouTube Live配信

共 催：UN Tourism駐日事務所、アジア太平洋観光交流センター（APTEC）

テーマ：何ゆえに先進地域になり得たか 今後の課題は何か

パネリスト：

- ・二セコ町 参事 三上 進 氏

- ・（株）かまいしDMC 代表取締役 河東 英宜氏

- ・（一社）田辺市熊野ツーリズムビューロー代表理事 多田 稔子 氏

- ・（一社）キタ・マネジメント広報係長 井上 陽祐 氏





## (3) アジア太平洋地域における持続可能な観光の推進

### ① ベトナム事業

2022年度から3年間のベトナム政府との連携事業の最終年度として、「持続可能な観光を通じた地域コミュニティの振興」をテーマに、ケーススタディと教訓を共有するとともに、持続可能な観光地経営のあり方について議論するためのシンポジウムをホーチミンにて開催した。

- 開催日時：2024年9月5日(木)  
※International Travel Expo(ITE)の期間中のセッションの1つとして開催
- 開催地：ベトナム、ホーチミン
- 共 催：UN Tourism駐日事務所  
アジア太平洋観光交流センター（APTEC）  
ベトナム国家観光局（VNAT）
- 協 力：ホーチミン市観光局
- 参加人数：約90名



### ② 太平洋島嶼国事業

同地域における観光レジリエンスをテーマとしたセミナーを開催するべく、フィジー政府及びPacific Tourism Organization (SPTO)との調整を行った。  
また、2025年度にパラオで持続可能な観光に関するワークショップを開催するため、事前の現地調査を行った。



## (4) 奈良県における持続可能な観光地づくり支援事業【奈良県受託事業】

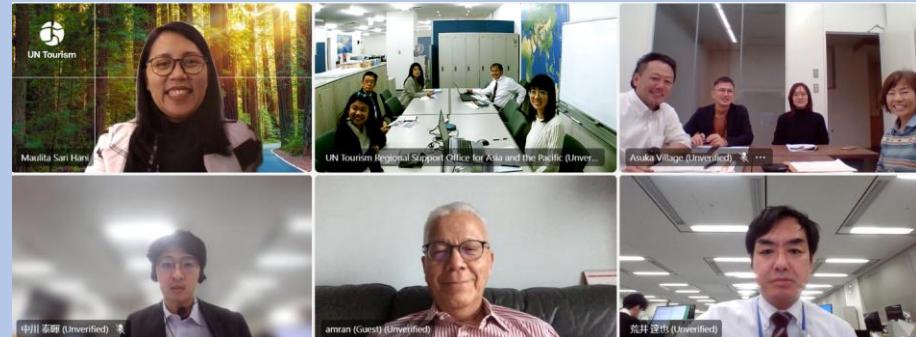
県内市町村を対象とした持続可能な観光に関する勉強会を2回開催するとともに、飛鳥、奥大和、吉野エリアを対象に技術的助言等を行った。飛鳥エリアにおいては、明日香村のベスト・ツーリズム・ビレッジ（後述）のアップグレードプログラム申請に係る伴走支援を行った。

### 奈良県「持続可能な観光地づくり」勉強会

日 時：2024年10月28日（月）及び29日（火）

開催場所：奈良市及び橿原市

共 催：UN Tourism駐日事務所、奈良県



## (5) 奈良市における持続可能な観光地づくり支援事業 【奈良市受託事業】

学識経験者や観光関連事業者等による『奈良市「持続可能な観光」検討懇話会』を開催して議論を重ね、持続可能な国際文化観光都市の実現に向けたアクションプランをとりまとめた。





RSOAPが行う、UN TourismのTourism Resilience Initiativeに関する活動を支援した。

## (1) 観光レジリエンスサミットの開催【観光庁連携事業】

観光庁とUN Tourismが連携し、観光レジリエンスの課題や取り組むべき政策などを議論し、そのあり方を日本主導で世界に発信するため、「観光レジリエンスサミット」を開催した。

RSOAPはシンポジウムの開催を担当し、国内外における観光危機に備えるための取組や実際の経験を共有するとともに、防災と観光レジリエンスの関係の理解促進を図った。

- 開催日： 2024年11月9日（土）～11日（月）
- 開催地： 宮城県仙台市
- 主 催： 観光庁、UN Tourism駐日事務所
- 参加者： 約100名（シンポジウム）
- シンポジウムテーマ：  
過去の危機の経験と教訓を次の危機への備えにどう活かすか



## (2) 観光レジリエンスサミットに関する優良事例集等の作成

観光危機管理に関する加盟国政府・自治体・DMO・民間企業の意識を高め、具体的な行動を促進するため、優良事例集等を作成する。国内外の自治体・DMO・民間企業における実践事例を収集すべく、5地域にインタビューを行った。

# 1-3 学術的調査・研究支援事業



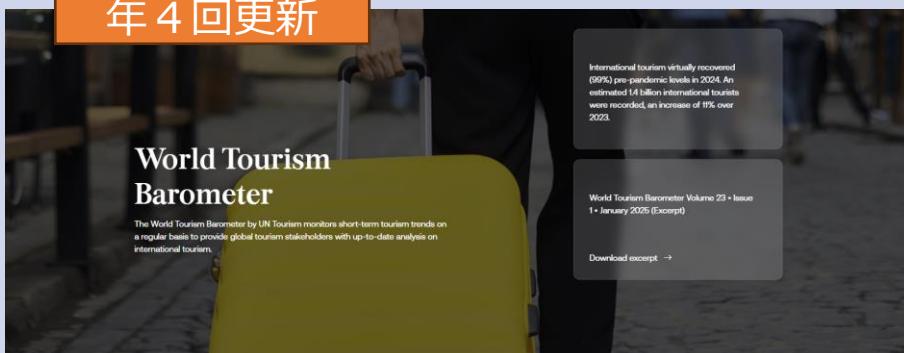
## (1) UN Tourismの観光統計や出版物の日本語訳と公表

RSOAPが、UN Tourismの観光統計や研究成果に関する出版物を日本語に翻訳して公表することを支援した。

2024.12公開

近日公開予定

年4回更新



## 1-4 UN Tourism及びUN Tourism関連国際会議等への参加・運営支援

	会議名	開催期間	場所
1	2024 Training Programme for UN Tourism INSTO in China	2024年5月28日～6月1日	中国・黄山
2	第36回UN Tourism東アジア太平洋地域及び南アジア地域合同委員会	2024年6月26日～28日	フィリピン・セブ
3	ワールド・ツーリズム・デイ (World Tourism Day)	2024年9月26日～27日	ジョージア・トビリシ
4	ツーリズムEXPOジャパン	2024年9月26日～29日	東京
5	UNWTOアジア太平洋エクゼクティブトレーニングプログラム	2024年10月28日～31日	マレーシア・クチン
6	第2回ベスト・ツーリズム・ビレッジ年次会合 (Second Annual Meeting of Best Tourism Villages)	2024年12月9日	ベトナム・ホイアン



日本国内のベスト・ツーリズム・ビレッジ※に認定された地域間の連携を図り、情報共有及び相互啓発を行うとともに、持続可能な観光の取組の深化に資する活動と共にを行うことにより、日本国内のベスト・ツーリズム・ビレッジの観光の質及びブランド力の向上につなげるべく、「日本版ベスト・ツーリズム・ビレッジ連携協議会」が2024年11月に設立された。同協議会の設立及び運営にあたり、RSOAPが事務局を務めることを支援した。

※ベスト・ツーリズム・ビレッジは、地域社会に根差した価値観、商品、ライフスタイルを維持・促進し、経済、社会、環境のあらゆる側面において持続可能性に取り組んでいる農漁村観光地の優れた例を表彰する取組。2024年には、新たに山形県西川町、鹿児島県天城町が選出された（国内では合計8地域）。



## 第1回日本版ベスト・ツーリズム・ビレッジ連携協議会総会・シンポジウム

- 開催日：2024年11月25日（月）、26日（火）
- 開催地：岐阜県白川村
- 参加者：  
(総会) BTVネットワーク参画地域  
**ニセコ、美山、美瑛、奥松島、白馬、白川、西川  
天城、明日香、山古志、白山**

(シンポジウム) 会場：約70名

オンライン配信視聴：約100名





## (1) UN Tourismの取組の周知

国内外の会議、セミナー、シンポジウムにおいて、講演等を通じ、UN TourismやRSOAPの活動、持続可能な観光の重要性等について情報発信した。

JICA・GTRCMC主催ワークショップ  
in ジャマイカ、キングストン



飛鳥ミライズ第1回カンファレンス  
in 明日香

世界防災フォーラム in 仙台



## (2) ウェブサイトを通した情報発信の強化

RSOAPのウェブサイトの運営を通じて、UN Tourism及びUN Tourism賛助加盟員の情報発信を行った。



### 1 国際人材育成支援事業

高等学校・大学等における講義・講演を行うとともに、若年層のUN Tourismの活動や持続可能な観光に関する理解の増進、国際感覚の涵養及びキャリア形成を支援した。

### 2 国際交流サロンの運営

当財団の事務所に隣接する国際交流サロンにおいて、奈良県外国人支援センターの協力を得て、国際交流イベントや国内及び国外の観光情報の提供を行った。

## 第3：賛助会員に対する取組

### 1 APTEC会員限定セミナーの開催

賛助会員限定による対面のセミナーを開催し、賛助会員同士のネットワーク形成機会を提供した。

### 2 APTECウェブサイト等を通じた情報発信

ウェブサイトを通じて、当財団の活動、当財団が支援するRSOAPの活動、当財団賛助会員の観光に関する事業の情報発信を行った。

